

たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8

【仮庁舎 令和3年6月まで】

〒037-0202

青森県五所川原市金木町芦野200-498

TEL : 0173-53-3848 FAX : 0173-54-2102

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

取り組みの一部を紹介 ～ 秋の調査について ～

すっかり冬になってしまいましたが、秋の調査についてお話をします。当センターでは、秋の毎日はバタバタと過ぎていきます。なぜかという、その年の成長を終えた「植栽木の計測作業」が秋に集中するからです。そんな計測作業に追われる秋の日々の中、今年度は「種」に関する業務を2つ行いましたのでご紹介します。

ひとつめは、早生樹として注目される「ユリノキ」の種です（図1、2）。今年度から、青森県内に植栽されたユリノキを対象とし、種子による繁殖の可能性を検証しています。調査項目のひとつが、母樹からの種子の飛散距離（m）です。具体的には、母樹周辺を歩きながら、落ちていた種子を探し、位置情報を記録していく作業です。大切なデータ収集なのですが、とても地道な作業です。はじめは中々見つからないのですが、目が慣れると、次々見つかるようになるから不思議です。豊凶による年変動があると考えられるので、今後も継続調査をしていきます。



図1：R2年11月 ユリノキの集合果（青森市）

ふたつめは、日本三大美木のひとつ「青森ヒバ」の種子です。東北森林管理局では、ヒバ林の復元を目的とした取組を推進していますが、効率的な天然更新技術の開発が課題となっています。このことから、青森県野辺地町のヒバ天然林を対象とし、着果促進剤である「ジベレリン」の有効性を検証しています（図3、4）。昨年度までに正常な花や球果の形成が確認されているので、今年度は作業の効率化や低コスト化などについて検証しました。

（裏面へ続く）



図2：ユリノキの種子（風によって飛散します）

ヒバのジベレリン処理の適期は7月中旬から8月上旬とされています。炎天下の中、汗だくになりながら作業をした甲斐もあり、11月には花芽の形成が確認されました。調査結果については、今後の現地検討会などで情報発信をしていきます。（青山）



図3：R2年8月 ジベレリン処理のようす



図4：R2年11月 ふくらむ雌花と雄花

森林技術・支援センターの新庁舎について

令和2年3月から旧庁舎の解体作業が始まりまして、5月には更地となり、その跡地へ新庁舎を建設しています。新庁舎の外観ですが、センターが所在する青森県中泊町内の木造建築デザイン（深い軒、棟木くむなぎ）、軒天現しの構造）が取り入れられ、周辺風景に溶け込む形態となっているそうです。

また、旧庁舎は1階建てでしたが、新庁舎は2階建てになり、1階は森林技術・支援センター事務室など、2階に森林事務所事務室や会議室などが配置となります。現在は図1の状況でして、内装作業が行われています。

今後、完成間近になりましたら、内装などの状況もお知らせしたいと思います。

（葛西）



図1：R3年2月 新庁舎（中泊町）

～編集後記～

今シーズンの冬は、私の願いが叶わず・・・例年どおりを超えた大変厳しい冬となっています。車で通勤してしまし、先日、地吹雪にあっ
てしまい手に汗握る体験をしました。本場の地吹雪はひと味もふた味も
違いますね（泣）。暦の上では立春が過ぎ、春は近づいていますが、寒
い日はまだ続くかと思っておりますので、お体に気をつけて過ごしてください。
また、耳にたこ(^_^;)かと思っておりますが「新型コロナウイルス感染防止対
策」の徹底をしましょう。

